

次世代特許実務の標準：自律型AI「Summaria」と知財ツール比較

SUMMARIA: 自律型調査支援ツールの実行プロセス



STEP 1:
調査対象のアップロード
ユーザーは細分化したい特許番号や特許明細書を入力するだけで、複雑な検索式の知識は不要です。



STEP 2:
検索式の自動構築と提案
AIがコンテキストを解析し、最適なキーワードと特許分類（FIFターム）を特定して最大50パターンの検索式を自動生成します。

**20時間分
以上の
工数削減**

2,000件規模の「全件全文」試験をAIが並列処理し、人間が行う膨大なスクリーニング作業を数十分で完了させます。



STEP 4:
星取り図の自動生成
調査対象の機能要件と先行文獻の間示内容を対比したレポートを、編集可能なExcel/CSV形式で出力します。

戦略的なマルチLLM活用



Default Mode (高精度・論理推論)
GPT-4oやClaude 3.5を使用し、複雑な個別筋別の権利や侵害予防能査など、見落としがちなリスクを適用します。



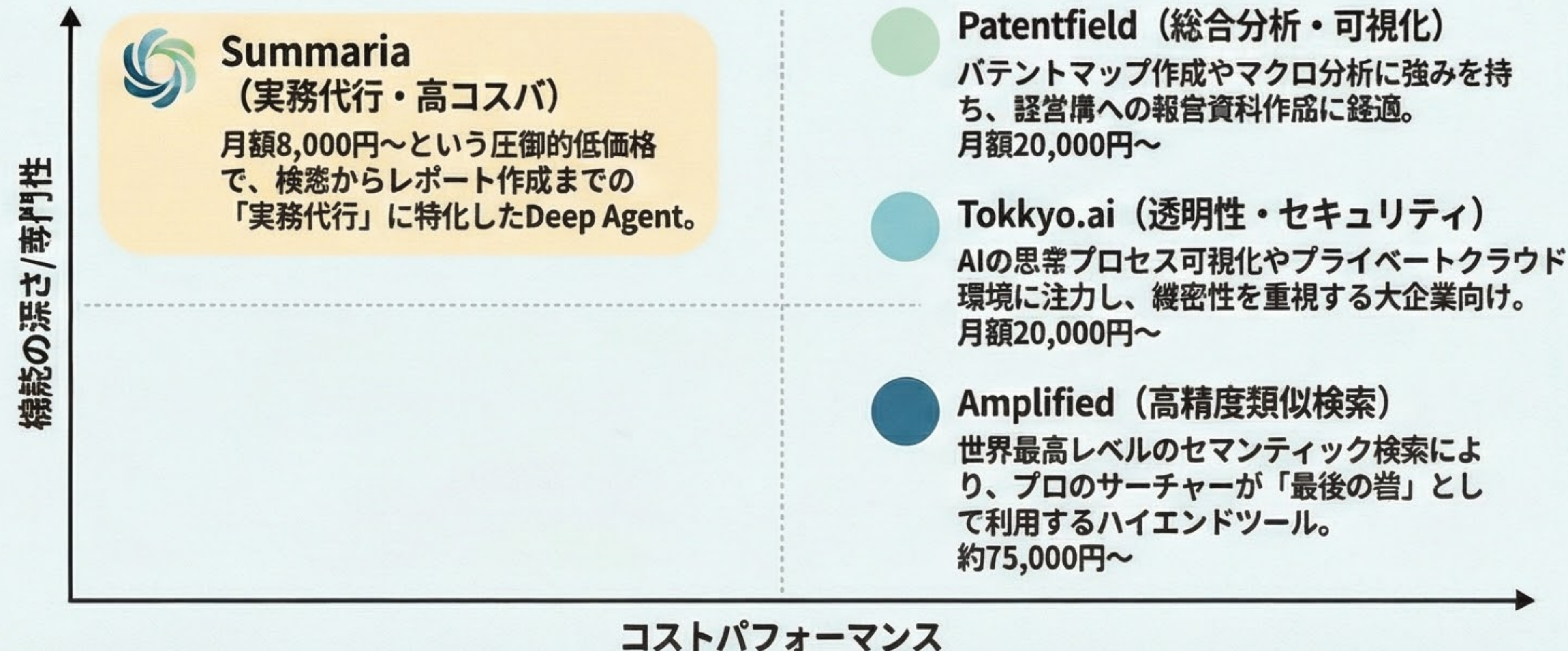
Mini Mode (高速・コスト効率)
軽量モデルを使用し、4,000件以上のバッチ処理や初歩スクリーニングを圧倒的な低コストで実行します。



ハルシネーション抑制技術

特許明細書をセグメント化（請求項、実施例等）して抽出する独自特許技術により、AIの「捏造」リスクを最小限に抑えています。

知財AIツールの市場ポジショニング（2026）



結論：誰がSummariaを選ぶべきか？



リソースの限られた 知財担当者

調査業務の「作業」をAIに完全に任せ、戦略的な判断に時間を割きたい方。



R&Dエンジニア

検索スキルの習得なしに、開発の初段階で素早く先行技術を確認したい現場。



効率化を目指す 特許事務所

定型的なスクリーニングを自動化し、事務所の収益性とサービス品質を向上させたいプロフェッショナル。